

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392600037		
法人名	特定非営利活動法人ケアセンターいこい		
事業所名	高齢者グループホームいこいの杜（A棟）		
所在地	〒029-4102 岩手県西磐井郡平泉町平泉字樋の沢25-1		
自己評価作成日	令和6年10月7日	評価結果市町村受理日	令和7年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年11月20日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道4号線の近くに位置し、最寄りのバス停より500m以内、山目駅より2km以内、平泉ICより2km以内と交通の便も良い所にあります。自然や民家に囲まれ、静寂で日々四季を感じられる環境になっています。自前の畑もある為、土や農作物などにも直接触れることが出来、園芸療法や生活リハビリなどにも力を入れています。食事は四季を感じ、楽しんで頂けるように創意工夫しており、あずきぱっとうやおはぎなどは特に喜ばれています。行事や日々のレク活動も盛んで、季節のイベントを盛り込みながら利用者様を盛り立てよう尽力しています。ドライブなどは勿論、秋の運動会なども日頃の成果を発揮すべく盛り上がるイベントになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、旧国道4号線と4号バイパスに挟まれた地域にあって、事業所や民家が点在する静かな環境の中に位置している。毎年度全職員で考案する事業所目標は、利用者へのより良い支援の基軸となっている。退職者が少なく、職員同士が自由に提案し合える風通しの良い職場環境を基盤として、コロナ禍以後、施設の外との関わりが積極的に再開されている。令和6年度は、地域の方々の協力を得て避難訓練を実施した他、子ども会との交流、中学生の職場体験の受入などを行っている。高校生や踊りのボランティアも調整中であり、町内会に加入し、窓ふきや草取りについても地域の方々の協力が得られている。利用者のこれまでの人や場所との関係が途切れないような支援が配慮されており、家族の他、友人や親族、同級生や近隣の方など、様々な方々が面会に訪れている。毎月1回はドライブ等の行事を企画し、利用者が全員で外出できる機会を設け、外気浴や屋外レクなど敷地内でも気分転換を図っている。複数の系列事業所があり、非常時の避難体制や職員支援も強化され、看取り時の医療管理が必要な利用者の施設移行も可能な体制にある。

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 高齢者グループホームいこいの杜 (A棟)

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念は玄関先に掲げ、いつでも確認できるようにし、毎日社是を唱和し、介護の日々の指針になっている。事業所内でも法人の理念に基づきながら、昨年度の反省を踏まえ目標を掲げ、日々邁進している。	法人の理念が玄関先と各ユニットに掲示されている。毎年度全職員が事業所独自の目標を提案し、その中から目標を選定している。今年度は「利用者の立場に立って、丁寧なコミュニケーションを取る」と「利用者・職員の心と身体を守り、笑顔が絶えない杜にする」とし、具体的な実践の指針となっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症が5類に移行してから徐々に地域交流を盛んにすべく、6月には地域の方々の協力を仰ぎながら避難訓練を行い、7月には運営推進会議も対面での開催を行い、地域の子供会や幼稚園・保育所などにも交流すべく声を掛けて行き、地域の方々に認識して頂けるよう努めている。	コロナ禍で途絶えた地域との交流事業の再開に向け、管理者は積極的に関係者に声がけし、地域の子供会との交流や夏の中学生職場体験学習などを行ってきた。避難訓練には、地元区長や民生委員のほか地元住民も加わり5、6名の協力があった。自治会に加入し、窓ふきや草取りについても地域の方々の協力が得られている。管理者は以前交流のあった幼稚園などへの働きかけや地元自治会との協力体制を強化することも視野に入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行われている医療介護連携推進会議やセミナー、ケアカンファレンスなどに積極的に参加し、地元の中学生の職場体験なども積極的に受け入れている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で発案された事柄は職員にまでおろし話し合い検討を行い、少しでもサービス向上に活かせればと思ひ尽力している。	コロナ禍や職員の感染もあり、対面式の会議は今年度第2回目から再開できた。会議は委員からの発言も活発で、気軽な雰囲気で行われている。家族の委員は両ユニットから交互に交代で出席し、多くのご家族に参加していただいている。避難訓練など、委員が事業所の行事に参加した際の会議でも、具体的な意見が出されている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時や町での医療介護連携推進会議やカンファレンスなどに積極的に参加し、情報交換を行っている。また、必要時に助言を頂きながら協力を関係を気付けるように取り組んでいる。	保健センター職員か地域包括支援センター職員が1年交代で運営推進会議のメンバーとなっている。研修やカンファレンス、情報交換などを行う医療介護連携推進会議にも、積極的に参加している。介護認定や事故報告に関しては広域行政事務組合、生活保護の利用者については行政の担当者と連携を密にしている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 高齢者グループホームいこいの杜 (A棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年研修会を開催し、毎月身体拘束について具体的例を出しながら、実際に身体拘束を行っているか確認している。その際、身体拘束になるのではないかとされるものがあれば、どのような対処を行えば身体拘束にならないか話し合い、実行している。	虐待も含めた身体拘束の職員研修を年2回行い、また、毎月開催している両棟合同での職員会議の中で、身体拘束実施の有無などについて協議している。同意を得て6名が居室に人感センサーを設置している。両棟中央にある玄関の施錠は夜勤時間帯のみ行い、不穏外出傾向の利用者がいる場合だけ日中も施錠することがある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年研修会を開催し、職員の理解を深めると共に、実際に報道されている虐待などの例をあげながら、自分たちが虐待をしない・させない為の環境作りに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年研修会を開催し、理解を深めると共に、施設内で必要とされる利用者様がいれば、家族や関係機関と連携しながら必要な書類提出など協力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書類などを提示し、分からない所があればその都度説明するようにし、なるべく不安箇所なく入居して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設来所時や電話連絡頂いたときなど、家族からの意見や要望など聞き入れ会議などの議題にいれ、運営に反映させるようにしている。	家族との面会は平均月1回。基本的には玄関脇の地域交流室を面会場所としているが、居室での面会にも対応している。利用者本人が携帯電話で家族を呼んだり、家族が一人暮らしのため事業所側から面会の機会を作るように配慮している利用者もある。家族からケアに関する希望等はあるが、要望や意見は特に聞かれていない。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 高齢者グループホームいこいの杜 (A棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや各会議を通して職員の意見や提案を聞き入れ、意見交換しながらより良い運営が出来るように尽力している。また、風通しの良い環境を作る為、日々ねぎらいの声を掛けながら職員の声を聴くようにしている。	管理者は、職員同士が自由に提案し合える、風通しの良い職場づくりを大切にし、職員への身体面と精神面への配慮を心がけ、次回出勤への意欲維持に繋がる声掛け、年休取得や資格取得にも配慮している。事業所と本部の関係も良好で、備品購入などの要望や希望による個人面談なども実施されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価し、それを基に管理者や代表者が確認しながらすり合わせを行い、必要であれば面談を行い、その人自身が働きやすくやりがいのある職場に近づけられるように尽力している。また、年1回その人自身の能力に合わせながら昇給も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の進歩状況を踏まえながら内部研修や外部研修への参加の機会を設け、職員一人一人のケアの向上を目指せるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やケア会議、セミナーなどに参加することで、自施設以外の同業者と交流する機会を設け、情報交換し、自施設のサービスの質の向上などに活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時等で本人の思いや要望、不安に思っている事、生活歴を聞きながら、本人が今後安心して生活していけると思ってもらえるような関係性を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面会時や入居時に家族の思いや要望、不安に思っていることなどを傾聴し確認している。また、疑問点などはその都度聴いてほしいことを伝えている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 高齢者グループホームいこいの杜 (A棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族等、関係機関から現在の状況などの情報を求め、外部のサービスなどの情報の提供も行い、それらを元に必要となるサービスの確認を行っていき、入居時から不安なく円滑にサービスが受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状態を確認しながら出来ることを探し、料理や掃除、洗濯物たたみなど出来ることをやって頂きながら、利用者様同士お互いを尊重し合える関係性を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態や状況など面会時や電話、写真などでお知らせしながら情報交換し、馴染みの関係を築きつつ、状態・状況変化時、急変時などは家族・職員ともども協力しながら本人を支援するよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友達などの面会の希望があった際は個室を提供し、感染症などの配慮を行いつつ、交流して頂き、社会との関係性を途切れさせないように努めている。また、デイサービスも行っており、新たな馴染みの関係も出来ている。	本人のこれまでの人や場所との関係が途切れないような支援に努めており、友人や親族、同級生や近隣の方など、様々な方々が面会に訪れている。夫婦で入居されている方や、連休等に帰省される方、デイサービス利用者と交流を深めている利用者もある。床屋は2月に1回来所するが、馴染みの床屋を利用する方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	長く共同生活をしていく中で生まれる個々の結びつきや性格の不一致などから孤立してしまう状況など、職員が間に入り利用者とかかわりあいながらお互いが支え合えるような関係性を築ける。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も、必要に応じて本人や家族の相談や支援に努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：高齢者グループホームいこいの杜（A棟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族と今後生活していく中で思いや希望などについて話し合いながら意向を確認し、本人の望んだ生活に少しでも近づけるように日々コミュニケーションを取りながら支援に努めている。意思表示が困難な利用者にも表情や態度、家族と相談しながら思いをくみ取るようにしている。	入居前のアセスメントや利用者やご家族からの聞き取りにより、入居後の生活での意向やこだわりは一通り確認し、その後に把握した内容はその都度職員間で共有している。「欲しいもの」「行きたいところ」「誰に会いたいか」「何を食べたいか」など、利用者が自由に伝えられるよう配慮している。言葉で伝えることが難しい方には、表情や態度からの推察、YES・NOで答えられる問いかけを使用するなどして、本人の思いを汲むよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居中に利用者や家族とコミュニケーションを取りながら生活歴や生活環境などを聞き、関係機関などの情報など他の職員とも情報を共有しながら、これまでの暮らし方の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々職員間で情報共有し、一人一人の現状の把握に努め、状態変化などその都度その人に合った支援方法を提供できるように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族と意向について確認し、毎月担当者がモニタリングを行い、それに沿って必要な関係者や職員と話し合いながら、本人に必要なと思われるものなど確認しながら現状に即した介護計画を作成している。	入居前の面談は2回実施し、アセスメントを経て1～3か月の初回ケアプランを作成している。入居後は、職員1名が利用者2名を担当して毎月モニタリングを実施し、概ね6か月ごとにケアプランを作成して、本人・家族の同意を得ている。計画作成の際には、掃除や料理など、本人の得意なことを役割として大切にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々利用者の状態を個別記録し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況によりその都度話し合いながら柔軟な対応を心掛け、必要とする支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。			

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：高齢者グループホームいこいの杜（A棟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し利用しながら本人が心身ともに安全で豊かに生活していけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族が希望するかかりつけ医で受診して頂くと共に、情報提供を求められた場合はそれに応じている。又、本人・家族の希望があれば訪問診療の対応を行い、本人が適切な医療を受けられるように支援している。	原則入居前からのかかりつけ医の受診とし、通院は家族の対応としている。状態の低下や家族が遠隔地居住の場合には、訪問診療を利用し、現在一関市内の三つの医療機関から月1回訪問診察に来所している。入居前からのかかりつけ医受診が両棟合わせて3名と限られ、大半の利用者が訪問診療を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回看護師が訪問し、利用者一人一人の状態を確認し助言又は相談に応じてもらい、必要とあらば主治医に連絡してもらい、本人が適切な医療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて、病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時、安心して治療できるように、又は出来るだけ早く退院できるように病院関係者や家族と情報交換や相談に努めている。そうした場合に備えて、病院関係者との関係づくりも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に向けた方針や事業所で出来ることなどを説明し納得して頂いている。更に状態が悪化してきている場合には家族や本人だけではなく医師を交え今後起こりえることなども説明しながら方針を共有するようにしている。	入居時に重度化、看取りの対応についてご家族に説明している。家族が希望し主治医判断を得て、可能な場合に終末期の対応を行っている。ここ1年間では1名の利用者の看取りを行った。看取りの経験のあるスタッフも多く、家族の宿泊も可能である。医学的処置が必要となった場合には次の施設を検討いただく場合があるが、看護師の配置がある系列のグループホームへの移行も選択肢にできる。	

事業所名：高齢者グループホームいこいの杜（A棟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成すると共に、研修会を開催し、確認するようにしている。又、法人としてAEDを設置し、定期的に救急救命について講習会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中・夜間・地震や火災を想定した避難訓練を地域の人たちや関係機関を交えて行ったり、町役場や本部ともハザードマップを確認しながら避難経路についても確認している。	今年度2回実施した訓練には、いずれも5、6名の地域住民も参加し、避難した利用者の見守りをお願いした。災害時の避難計画では、隣市にある事業所が避難先に設定され、避難車両も借用することとなっている。火災、地震などの避難時は、勾配の緩やかなスロープ設置の避難経路が複数あり、屋外の路面も舗装整備され、車椅子利用者も円滑に避難できる安心感がある。雨天や降雪時には、敷地内の屋根付き物置が避難先として利用できる。停電の際に4日間使用できる非常用電源を最近設置している。	BCPを策定済みですが、万が一敷地外への避難が必要とされた場合など、非常時の具体的な対応の整理が必要です。夜間のミニ避難訓練等も行いながら、職員や地域の方との話し合いを重ねていくことが期待されます。また、豪雨発生時などの福祉避難施設としての運用も、今後本部や運営推進会議などで協議されることを期待します。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の個性を尊重しながら話に耳を傾けるようにし、本人の大切にしていることなどを尊重するように心がけている。プライベート空間に入室する際は本人に断りを入れながら入室し、個々の自尊心を大切にしながら支援している。	丁寧な言葉遣いと利用者の個性や特徴の理解と尊重を基本にしながら、利用者を敬い対応する姿勢で日々支援に努めている。居室入室時にはノックと声がけを必ず行うようにしている。夫婦の居室は隣とし、トイレや風呂の介助者については本人の希望を確認しながら同性介助に配慮している。「いこいの杜通信」の利用者顔写真には、必要に応じてぼかしをかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者が自由に表現や自己決定できるように見守りや支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活において色々な決まりなどがあるが、その時の本人の気持ちや体調などを考慮しながら、本人の希望に沿った支援を行うようにしている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 高齢者グループホームいこいの杜 (A棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の希望を取り入れながら、季節に合った服装になるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で栽培したものなど一緒に収穫しながら季節を感じてもらい、なるべく季節の食材を利用し、季節の行事などのメニューも多く取り入れるようにしている。利用者の嗜好なども聞きながら取り入れ、また、調理や片付けなどにも携わって頂いている。	利用者の好物(おはぎや餅の代わりの団子)や職員と一緒に手作りのおやつを作ったり、季節感のある食材や事業所入口にある畑で育てた夏野菜が食卓を彩るなど、食事に重点を置いて楽しみに繋がる支援を行っている。回転ずしの外食、バイキング、バーベキュー、郷土食等、食に関する様々な楽しみを利用者に提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居時に本人や家族、関係機関などから本人の嗜好や摂取量を確認し、生活していく中で本人の好む味覚や食形態などを確認しながら食事や水分を提供している。又、主治医などに状態や体重の増減など伝え、栄養状態について助言を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて歯磨きや入れ歯の手入れを行って頂けるよう、口腔ケア用品を準備し促している。自分では行えない利用者様や磨き残しが顕著にみられる利用者には介助を行い、その人に合った口腔ケアを行えるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほぼ自立しているが、排泄パターンなどを記録し、本人の表情や行動でトイレに誘導しトイレでの排泄が継続できるように支援している。失禁しても本人の尊厳を損なわないような支援に心掛けている。	尿意の有無や失敗の有無に拘わらず、歩行と便座でのしやがみ立ち上がりができるうちは、トイレでの排泄支援を基本としている。失敗した時は、臭いや表情、歩き方が普段と異なるなどの様子が、他の利用者に気づかれないように配慮している。立位保持ができなく歩く意欲の無くなった利用者にはオムツ使用としている。夜間のみポータブルトイレを使用する方が1名、視力の関係から終日ポータブルトイレを使用する方が1名いる。失禁時は本人の訴えや様子等から判断し、プライバシーに配慮しながら速やかに対応している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：高齢者グループホームいこいの杜（A棟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を確認しながら、食事量や水分量などの確認しながら、こまめな水分補給と運動、乳酸菌などを取り入れ、なるべく自然排便できるように支援している。又、主治医にも相談し、薬による排便コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の予定日は決まっているが、その時に本人の希望に合わせ臨機応変に曜日や時間帯を変更している。又、個浴する事によってプライバシーを保護しながらゆったりと自分の時間を楽しんで頂けるように支援している。人によっては音楽を流したり、職員と一緒に歌を唄ったり、談笑し過ぎて頂いている。	浴室は、A棟では機械浴での入浴ができ、B棟は普通浴槽となっている。週2回午前中に曜日毎に各棟3名の利用者が、職員とマンツーマンでゆったりと入浴している。入浴剤を使ったり、季節感を創出するゆず湯などにすることもある。職員と一緒に歌を唄う利用者もある。利用者毎に入浴予定日は決めているものの、希望や気持ちの変化により、5人が入る日や提供予定のない日曜日に入浴する場合もある。脱衣所は床暖房となっており、入口は両棟から自由に入出でき、利用者の状態に合わせ浴室を選択できる利便性の高い設計となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡や就寝時間は特に設けておらず、一人一人の生活習慣や状況に応じて居室やホールにて過ごして頂いている。ホールには所々に椅子やソファが設けてあり、自由に過ごして頂ける空間にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬剤師、薬の処方箋にて薬の効能や副作用などを把握するように努めている。又、利用者の症状や状態の変化など、主治医とこまめに相談し連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同生活の中で知り合った人達とそれぞれが出来る事をして頂きながらなじみの関係が作れ、日々張り合いや楽しみながら生活していけるように支援している。レク活動や行事にも力を入れており、毎月季節が感じれるように職員がアイデアを出し合い実施している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：高齢者グループホームいこいの杜（A棟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外に行きたいという希望にはなるべく添えるように支援している。又、遠方などに行きたい場合などは本人や家族と相談しながら希望に添えるように尽力している。	毎日外出したい利用者には、季節を問わず散歩に付き添っている。散歩の声がけをしても気乗りしない利用者には無理強いせず、気持ちが前向きな時に外出している。春から秋にかけては、事業所入口の畑の草取りや収穫作業も外出の機会となっている。夏季や冬季の外出困難時期や声がけで気乗りしない利用者などは、事業所全体が口の字型になっており、午後の時間帯にグルグルと歩行運動をして気分転換を図ることができるよう配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様のお小遣いなどは施設で預かり、利用者様が必要な時に渡したり、支払い代行を行っている。また、利用者様やご家族の許可を得て、自ら財布を持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様やご家族の希望により電話や手紙などの橋渡しを行っている。利用者様によっては携帯電話を持参され、自ら電話連絡行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が書いたものや作ったものなどを展示したり、季節の花々や畑で取れた野菜などを飾ったりし、季節を感じて頂くようにしている。又、音や光、温度などもその都度調整し、快適に過ごして頂けるようにしている。	A、B両棟ともにとても広いホールの造りで、国道4号線沿いにあっても静かで明るくゆったりくつろげる共有スペースとなっている。中央に設置されたテレビをゆったりとして観れるソファを配置し、壁には貼り絵などの季節の作品が飾られ、午睡後の利用者が集うホールは、穏やかな空気に包まれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には利用者様がお食事やレクなどで常時過ごすテーブルのほかに各箇所にソファや小上がりスペースを設け、利用者様が思い思いに過ごせるスペースを設置している。		

事業所名：高齢者グループホームいこいの杜（A棟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	入居時に利用者様の愛着あるものや現在まで使 用していたものなど持ってきていただき、利用者 様やご家族様と相談しながら写真や小物の配置 など決めている。	共有スペース同様、広い一間の収納スペースが あり、持ち込んだ衣類や排泄用品などを室内に 置いたままにすることなく収納されており、居室 内はすっきりと使用することができている。入口 側に洗面台が設置され、ベッドやエアコン、丸 テーブル、加湿器、温度湿度計が備え付けられ ている。利用者本人が携帯電話やテレビ、ラジ オ、大切にしている家族の写真やお位牌等を持 ち込むこともできる。入口には、利用者の名前や 写真が掲示されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境つ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、居室やトイレ など分かりやすいように大きな文字で入り口に表 示し、自ら行動できるようにしている。		